愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	スポーツビジネス		
担当者(Instructors)	杉谷 正次	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

スポーツには、「する」「みる」「支える」といった側面があります。そして、そこには一般的なビジネス、いわゆる製品を「製造する」「販売する」「サービスする」などと同様なビジネスが存在します。 そこで、本講義では、(1)スポーツビジネスとは何か、(2)サッカーによるスポーツマーケティング、(3)プロスポーツビジネスの実際、(4)フィットネス産業、(5)スポーツ・ツーリズムといった5つのテーマを取り上げ、わが国におけるスポーツビジネスの今後のあり方について理解を深めます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	基本的に授業は、講義形式で行います。 但し、授業の内容に応じてグループワークを取り入れることもあります。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	スポーツビジネスを学ぶにあたって	シラバスをもとに本講義の全体の内容について説明する。	□
第2回	スポーツという概念の成立	現代社会におけるスポーツの位置と意味、スポーツの本質とは何か、スポーツと経済の相互浸透について解説した上で、スポーツをビジネスするとは何かについて考える。	□
第3回	サッカーの誕生、「近代」と「スポーツ」および「サッカーの世界化」	サッカーの誕生と同競技が世界中に広がる過程について概説する。	□
第4回	スポーツのソフト化、スポーツマーケティングの成立	スポーツマーケティングの成立過程とその意味について考える。	□
第5回	スポーツビジネスのグローバル化とIT化	グローバル化するスポーツビジネスの現状とIT化の意味について考える。	□
第6回	「スポーツマーケティング」理論化の試み	サッカーマーケティングの事例を参考にして、スポーツビジネスの基本構造を理解する。	□
第7回	スポーツマーケティングの転換期	スポーツマーケティングの時代からスポーツマネジメントへの転換にあたり、今後のスポーツビジネスのあり方について考える。	□
第8回	プロスポーツビジネスの現状と課題(1)北米四大プロスポーツビジネス	巨大プロスポーツビジネスが展開されている北米四大プロスポーツビジネス（NFL、MLB、NBA、NHL）の現状を紹介する。	□
第9回	プロスポーツビジネスの現状と課題(2)日米プロ野球ビジネスを考える	プロスポーツビジネスとしての日本プロ野球（NPB）とアメリカメジャーリーグ（MLB）を取りあげ、組織・権限、経営状況等を比較しながら、それぞれの組織が抱える問題点と課題について考える。	□
第10回	プロスポーツビジネスの現状と課題(3)日欧プロサッカービジネスを考える	プロスポーツビジネスとしての日本のJリーグとヨーロッパサッカーの現状を比較し、それぞれの組織が抱える問題点と今後の課題について考える。	□
第11回	フィットネス産業	フィットネス産業の歴史と現状について解説し、フィットネスクラブが展開している経営戦略について紹介する。またわが国におけるフィットネス産業の動向についても触れる。	□
第12回	スポーツ・ツーリズム(1)沖縄県の取り組み	観光立国をめざすわが国の施策とされているスポーツ・ツーリズム、その成功事例としてあげられる沖縄県の「プロ野球キャンプ誘致」や「那覇マラソン」を紹介する。	□
第13回	スポーツ・ツーリズム(2)北海道ニセコ地域の取り組み	スポーツ・ツーリズムの成功例としてあげられる北海道ニセコ地域の事例を紹介する。	□
第14回	メディアとスポーツビジネス	新聞、雑誌、テレビ、ネットなどのメディアとスポーツビジネスの関係を解説する。	□

第15回	まとめ	スポーツビジネスの授業を総括する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習（予習）として、次回講義テーマについてインターネット等で調べ学習をする（2時間程度）。 また事後学習（復習）として、授業の終わりに提示した小レポートの課題を作成し、次回授業までに提出する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された小レポート（課題）は、原則として採点・講評・解答例の提示などによりフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2021地域ビジネスDP2	経営を取り巻く環境の変化に関心を持ち、スポーツビジネスが社会全体に与える影響について幅広く考察する。また、今後のスポーツビジネスのあり方などについて、多様な人々と協働するなど、他者に自分の考えをわかりやすく説明できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回提出された小レポート（課題）を【授業内試験】の成績として評価（70点満点）し、授業参加・貢献度（授業への取り組みなど）を【その他】の成績として評価（30点満点）します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	石川幸生・杉谷正次編著『現代スポーツビジネス』三恵社	
2	杉谷正次・石川幸生編著『現代スポーツマネジメント』三恵社	
3	広瀬一郎『サッカーマーケティング』ブックハウスHD	
4	大坪正則『スポーツと国力』朝日新書	
5	上西康文編『現代日本のスポーツビジネス戦略』大修館書店	